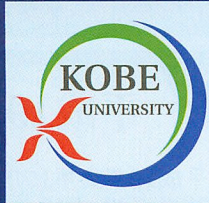




海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局



2008年1月1日



「海神会」と「海事科学研究科」に

会長 井上篤次郎

神戸大学と統合し、皆様の熱い情熱のもと海事科学部同窓会が発足して間もなく四年が経過します。また深江はさる四月に大学院に重点をおく海事科学研究科に発展し新たな一歩を踏み出したことを共に慶びたいと思います。同窓会についてはこの間試行錯誤の連続でしたがやっと軌道にのってきたと考え皆様に感謝申し上げます。

当初から「神戸大学海事科学部同窓会」では長いし、もっと親しみやすい通称名をつけたいと計画しお諮りしてきました。そして平成19年5月26日の総会において「海神会」(かいじんかい)と決定しました。その過程においては、神船会、深交会、白鷗会、七洋会など皆様の深い思いをのせた名称のご提案もいただきましたが、昨年の総会・評議会での討論、また在学生へのアンケート調査なども踏まえ、総会に提案しご賛同をえて命名されました。

海神はギリシャ・ローマ神話ではネプチューン、ポセイドン、そして海から産まれたビーナスです。逞しく生きる同窓は海の神々であり、そのクラブをイメージし愛していただければと思います。

もちろん大学名称もほのかに感じさせます。

洋々たる深江キャンパスの将来を思い、ともに歩むため、さきに届けさせていただいた「神戸大学基金」へのご協力も併せてお願いしご挨拶とします。



就任ごあいさつ

神戸大学大学院海事科学研究科長(海事科学部長兼任) 石田 廣史

この度、久保雅義前大学院海事科学研究科長の任期満了に伴い、平成19年10月1日付で大学院海事科学研究科長(海事科学部長兼任)に就任致しました。

平成15年10月1日に神戸商船大学は神戸大学と統合し、海事科学部・大学院自然科学研究科海事科学専攻として発足してはや4年が経ちました。この4年間、西田修身元学部長、井上欣三元学部長の下で学部長補佐(教育担当)として、そして久保雅義前大学院海事科学研究科長の下で副研究科長(評議員)として、統合後の教育上の調整や、海事科学部としての自立、そして本年4月より発足しました大学院海事科学研究科設立の準備作業などに携わってきました。

この4年間は本当に慌しく過ぎました。これからはもっと地に足を付けた着実な教育研究活動が本当の意味で海事科学部・大学院海事科学研究科に必要でしょう。ただ幸いなこと

に、これまでの学部長・研究科長が継続してなされて来ましたが、調整、自立、発展への絶え間ない努力は、この4年間で着実に実を結びつつあります。そして、それらの業績を確実に継承して着実に進めて行くのと同時に、新たな発展に向けより一層努力するのが私の役目だと考えています。

一方、神戸商船大学が神戸大学海事科学部になった事を広く広報していたにも拘わらず社会一般になかなか浸透せず(東京海洋大学海洋工学部も同様かもしれませんが)、社会における理解や認知は未だ十分とは言えない状況です。今後も継続して広報活動を行う必要性を痛感しています。そのためにも、同窓会・海神会のネットワークと種々の活動に大いに期待しております。是非とも神戸大学海事科学部・大学院海事科学研究科への海神会の皆様のご支援とご鞭撻を心からお願い申し上げます。

ご案内

平成20年度総会

日時：平成20年5月17日(土) 16:00～17:30
場所：ホテルオークラ 平安の間
議題：平成19年度の収支決算、平成20年度の予算、
評議員・理事・役員交代など

同窓会懇親会

日時：平成20年5月17日(土) 18:00～20:00
場所：ホテルオークラ 平安の間
会費：¥10,000(32期以降は¥7,000)

参加申込み先 総会および同窓会懇親会に出席される方は、4月30日までに下記宛先まで、FAXまたはメールにてご連絡頂きますようお願い致します。また、同窓会ホームページからの申込みもできますのでご利用ください。

FAX: 078(431)6439 E-MAIL: almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

同窓会の活動



平成19年度理事会・総会報告

平成19年度第1回理事会および通常総会が神戸大学海事科学部深江キャンパス総合学術交流棟1階のコンファレンスホールで開催されました。14時から理事25名、評議員28名が参加して理事会が開催され、引き続いて開催される総会で審議される事項について、理事会として審議を行い、事務局提案の通り承認されました。16時から会員68名の出席のもと、通常総会が右欄の式次第に従って開催されました。会則については一部修正を加えて承認され、また収支計算書、予算書などと理事、監事、評議員選任についても原案の通りで承認されました。会の名称については「海神会」とすることが承認され、また支部活動の報告などを終え、総会を終了しました。引き続き総合学術交流棟1階ロビーで懇親会が開催されました。

総 会 式 次 第

- ① 会長挨拶（井上篤次郎会長）
- ② 海事科学研究科科長挨拶（久保雅義研究科長）
- ③ 議長選出
- ④ 議事
 - (1) 会則の改正について（山田嘉道理事より）
 - (2) 平成17、18年度事業報告および収支計算書について
 - (3) 平成17、18年度収支計算書の監査結果について
 - (4) 平成19年度事業計画および収支予算書について
 - (5) 理事、監事、評議員の選任について
 - (6) 同窓会の通称名の選定について
- ⑤ 報告事項
 - (1) 関東支部、東海支部、関門支部からの報告
 - (2) 事務局長として天野俊夫が就任した。



会 計 報 告

本会の会計年度は4月1日から翌年3月31日までになっており、今回、ここに報告する会計報告は、総会で承認された平成17年度、18年度の決算報告書と、加えて平成19年度の予算書です。

このような変則的な形になっているのは前年度の総会が昨年2月に開催されたためです。

次年度総会は5月に開催されますので、その際には平成19年度の決算報告と、平成20年度の予算が審議されます。

平成17年度・18年度 収支決算報告書

■平成17年度(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)					■平成18年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)				
収入の部	項目	予算額	決算額	差異	備考	収入の部	項目	予算額	決算額
1. 会費収入						1. 会費収入			
	既卒業生	3,000,000	4,335,000	△1,335,000			既卒業生	3,000,000	5,035,000
	新入生・在学生	3,000,000	5,370,000	△2,370,000			新入生・在学生	4,800,000	4,500,000
2. 雑収入						2. 雑収入			
	預金等利息収入	10,000	135,520	△125,520	寄付、利息等		預金等利息収入	10,000	20,400
	当期収入合計	6,010,000	9,840,520	△3,830,520			当期収入合計	7,810,000	9,555,400
	前期繰越額	15,268,606	15,268,150	△444			前期繰越額	15,300,000	20,882,939
	収入合計(A)	21,278,606	25,108,670	△3,831,064	会費の増収		収入合計	23,110,000	30,438,339
支出の部						支出の部			
	項目	予算額	決算額	差異	備考		項目	予算額	決算額
1. 事業費						1. 事業費			
	総会費	500,000	292,670	207,330			総会費	400,000	0
	理事会費	50,000	13,580	36,420			理事会費	50,000	19,280
	会報	450,000	271,509	178,491	『だより#3』諸経費		会報	350,000	449,241
	会報送料	700,000	631,268	68,732	同上		会報送料	700,000	798,480
	HP開設・維持費	500,000	237,405	262,595	外注、年間維持費		HP維持費	500,000	237,615
	雑費						雑費	0	48,750
	小計	2,200,000	1,446,432	753,568			小計	2,000,000	1,553,366
2. 慶弔費						2. 慶弔費			
		10,000	0	10,000				10,000	0
3. 運営費						3. 運営費			
	人件費	600,000	736,000	△136,000	年間雇用費		人件費	900,000	735,000
	印刷費	20,000	36,120	△16,120			印刷費	100,000	0
	通信費	10,000	30,337	△20,337	郵送料		通信費	50,000	39,440
	事務費	200,000	91,177	108,823	事務室賃貸料		事務費	150,000	184,726
	会議費	30,000	0	30,000	分科会経費		会議費	30,000	12,260
	交通費	50,000	0	50,000			交通費	30,000	113,660
	雑費	0	40,890	△40,890	振込み手数料		雑費	400,000	301,050
	支部支援費						支部支援費	300,000	201,470
	クラス会支援費						クラス会支援費	1,960,000	1,587,606
	小計	910,000	934,524	△24,514			小計	3,000,000	2,217,600
4. 備品費						4. 備品費			
		300,000	136,935	163,065	PCの購入			300,000	221,760
5. 維持費						5. 維持費			
		120,000	177,920	△57,920	神戸大学友会関連経費			200,000	182,420
6. 学部支援費						6. 学部支援費			
		2,400,000	1,531,460	868,540	大学行事、フォーラム支援			1,000,000	824,518
7. 予備費						7. 予備費			
		70,000	0	70,000				50,000	0
当期支出合計(B)		6,010,000	4,226,731	1,005,177		当期支出合計		5,520,000	4,369,670
次期繰越収支差額(A-B)		15,268,606	20,882,939	△5,614,333		次期繰越収支差額		17,590,000	26,068,669
支出合計		21,278,606	25,108,670	△3,831,064		支出合計		23,110,000	30,438,339

次期繰越収支差額20,882,939円は平成18年度に繰越すこととする。

(注1)：学部祭、耐寒訓練、オープンキャンパス、各種セミナー、卒業証書ホルダー等

次期繰越収支差額26,068,669円は平成19年度に繰越すこととする。

●平成17・18年度 監査報告書

平成17・18年度決算に関する資料照合の結果相違ないことを認め、本日確認かつ適正であることを確認しました。

平成19年5月22日

監事：今西 邦彦

監事：石田 廣史

平成19年度 収支予算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)					(単位：円)
収入の部	項目	予算額	決算額	差異	備考
1. 会費収入					
	既卒業生	4,500,000	3,000,000	1,500,000	150名終身会費
	新入生・在学生	4,800,000	4,800,000	0	160名納入
2. 雑収入					
	受取利息	10,000	10,000	0	
	寄付	10,000	0	10,000	
	当期収入合計	9,320,000	7,810,000	1,510,000	
	前期繰越額	26,068,669	15,300,000	10,768,669	2年分会費増が累積
	収入合計	35,388,669	23,110,000	12,278,669	
支出の部					
	項目	予算額	決算額	差異	備考
1. 事業費					
	総会・評議会等経費	800,000	450,000	350,000	懇親会に学部生招待、HCデー
	会報発行費	450,000	350,000	100,000	『だより#4』の印刷諸経費
	会報送料	800,000	700,000	100,000	同上 送料
	HP維持費	250,000	500,000	△250,000	
	記念クラス会支援費	300,000	300,000	0	
	学部支援費	1,250,000	1,000,000	250,000	
	関係団体関連経費	210,000	200,000	10,000	神戸大学友会等関連費
	支部支援費	700,000	400,000	300,000	支部活動の支援増強
	会員証作成	500,000	0	500,000	終身会費会員に
	小計(A)	5,260,000	3,900,000	1,360,000	
2. 管理費					
	人件費	1,050,000	900,000	150,000	事務充実(1,050時間)
	会議費	30,000	30,000	0	分科会経費
	旅費・交通費	250,000	30,000	220,000	総会・部会・委員会等の開催
	印刷費	100,000	100,000	0	
	通信運搬費	50,000	50,000	0	
	什器備品費	150,000	300,000	△150,000	
	消耗品費	70,000	0	70,000	*
	光熱水費	60,000	150,000	90,000	上下3項目で(旧事務費)
	賃借料	70,000	0	70,000	*
	雑費	60,000	10,000	50,000	払込手数料、慶弔費など
	小計(B)	1,890,000	1,570,000	320,000	
3. 予備費(C)					
		500,000	50,000	450,000	
	小計(A+B+C)	7,650,000	5,520,000	2,130,000	
4. 特定予算積立金					
	特別会計へ拠出	25,000,000	0	25,000,000	同窓会基金として
	小計(D)	25,000,000	0	25,000,000	
当期支出合計(E)		32,650,000	5,520,000	27,130,000	特別会計へ提出分差
次期繰越収支差額(F)		2,738,669	17,590,000	△14,851,331	
支出合計(E+F)		35,388,669	23,110,000	12,278,669	



評議会報告

平成19年度第1回評議会が平成19年9月29日(土)13:30から深江キャンパス内の総合学術交流棟1階、コンファレンスホールで理事・評議員合せて43名のご参加を頂き開催されました。

井上篤次郎会長からのご挨拶として、神大ホームカミングデーに合せて開催する評議会に43名のご参加を頂いたことへの謝辞と、5月の総会で海神会名が決定され、また会則を改正して運営が軌道に乗ってきた旨のご報告がありました。

議事は、事務局推薦の古莊雅生評議員が議長として、平成20年2月が任期満了になる役員を引き続き20年5月の総会までの職務の継続が承認され、引き続き、各支部の活動報告が行われました。

さらに事務局から、3人目の新監事として山田滋巳氏(7T、

平成元年卒)に就任頂いたこと、記念クラス会への海神会からの支援金として、従来は卒業後50年、40年、30年となっていたのに20年を加えること、また預金のなかから2000万円を元本保証の住友信託銀行に預金した旨報告されました。

また、久保雅義研究科長からのご挨拶の中で、本年4月から大学院大学として研究科が発足し、海事科学部と海事科学研究科の2単位になったこと、さらに10月1日から石田廣史教授が新研究科長として就任される旨のご報告がありました。



深江キャンパスでのホームカミングデー行事

平成19年9月29日(土)に深江キャンパスで開催されましたホームカミングデー行事として、学内の一般開放に合せ、13:30から平成19年度第1回評議会が総合学術交流棟1階、コンファレンスホールで、14:40から引き続き神大・坂元茂樹教授による講演、「海洋基本法の成立とその意義—新たな海洋立国をめざして」、さらに16:00から総合学術交流棟1階ロビーで海神会懇親会が開催されました。



『白鷗会』から『海神会関西支部』へ

関西支部長 伊東勝馬(5N)

今年5月26日の同窓会総会において『同窓会関西支部設立』が承認されましたことは皆様既にご高承のとおりです。さて、昭和49年に設立された『白鷗会』という親睦会が今年まであらゆる面で活躍出来たのは神戸商船大学卒業生の皆様の情熱の賜物と感謝しております。中でも平成16年4月の神戸大学との大学統合のときには『白鷗会』が中心となり、『海事科学部同窓会』の立ち上げに全力を尽くした事は皆様ご存知のとおりです。これからの『海神会関西支部』は同窓会会則に定める事業の支援を基本に、地域の特性を生かし『同窓懇親行事の開催』を主体として今迄開催してきた、毎年9月開催の『白鷗杯争奪ゴルフコンペ』と月1回の『囲碁大会』等とおして、会員の懇親には今迄以上に努力したいと考えております。そして又、同窓生への連絡網の整備、ホームカミングデ

イなど母校行事への積極的参加、母校卒業生の就職活動の支援に力を注いでいきます。一方、神戸大学の親睦団体である神戸大学クラブ(KUC)には各学部より3名の運営委員が選出されており年中行事を計画実行しておりますが、海神会からは1期 宮地氏、5期 伊東、余田氏、が運営委員として参加しており、中でも深江丸体験乗船は神戸大学OBの方々には初めての経験でもあって、非常に好評で2年連続開催いたしました。その折、矢野船長とクルーの方には大変お世話になりました。又、『囲碁クラブ』は11期 加古氏が世話役となり毎月第2土曜日に海洋会館(神戸)において合同囲碁大会を開催しております。かように、神戸大学クラブ(KUC)とはこれからも友好・連携を保ちながら活動していく所存です。最後に同窓生各位の益々のご健勝、ご清福をお祈り致します。



練習船深江丸 関門支部と交流

深江丸は平成19年9月4日(火)~10日(月)の間、海洋・大気中の地球温暖化ガス計測他、多数の研究テーマによる夏季研究航海を実施しました。生憎、台風9号の影響で、紀伊水道~四国南岸~九州南東岸~瀬戸内海の航行を取り止め、

大阪湾~瀬戸内海~関門港を往復する航海となりました。航海の途次、7日(金)07:55に関門港門司区第13号岸壁に着岸し、午前11時及び20時半の2



度にわたり海神会関門支部の皆様の心温まる入港歓迎をいただき、さらに、たくさんの差し入れまで頂戴いたしました。乗船者を代表しまして心より厚くお礼申し上げますとともに、皆様のさらなるご活躍と支部のご発展をお祈りいたします。またの交流を楽しみにしております。なお、深江丸は、翌8日、07:50に関門港を出港、その後、高松に寄港した後、10日13:55に研究航海の成果を携え海事科学研究科ポンドに帰着しました。夏季研究航海その他、深江丸関連の情報は、**深江丸シップサイトへようこそ!**

<http://cs.maritime.kobe-u.ac.jp/tsf/>に掲載しています。お時間ございましたら是非ご覧ください。

深江丸船長 矢野吉治(N24)記

記念クラス会

class・reunion

クラス会便り (神船大二期会)

1957年(昭和32年)9月卒業の我々航海科二期生は、本年で卒業50周年を迎えたことになります。同期生57名中、既に15名の旧友が鬼籍に入り、それに加えて年齢73歳(浪人組はそれ以上)ともなれば、クラス会に元気に出席してくれる人数もめっきり減少し、現在では約20名位の級友が顔を揃えることができるのが現状です。

我々のクラス会は毎年、関東地区在住級友と関西地区在住級友とが一堂に会する「東西合同クラス会」(2泊3日・ゴルフコンペを含む)を中京地区において開催しており、来年はマニラにおいて開催する予定です。

さらに夏には「暑気払い奥様同伴クラス会」を、冬には「奥様同伴忘年クラス会」を神戸において開催しております。

従いまして、毎年クラス会を3回も開催しておりますので、取り立てて卒業50周年記念クラス会と銘打って開催しませんでした。今年の合同



クラス会が強いて言うなれば、50周年記念クラス会であったのかも知れ

ません。写真はその時の出席者の顔ぶれです。

卒業30周年記念クラス会は、1987年(昭和62年)、航・機合同クラス会(1泊2日)として、5名の恩師をお招きして、有馬温泉「兵衛向陽閣」において開催、神戸商船大学・学内に記念植樹をいたしました。

卒業40周年記念クラス会は、1997年(平成9年)、級友水入らずで、かつ、初めての奥様同伴クラス会(1泊2日)として、「有馬ビューホテル」において開催しました。

文責：神船大航二期会/幹事 明渡範次

神戸商船大学機関科二期卒業50周年記念クラス会

我々は機関科2期にちなんで“二喜会”という愛称のもとに2乃至3年毎にクラス会を開いてきた。今年は丁度卒業50年の節目にあたり、盛大に開催すべく幹事

早川君が骨を折ってくれたが、参加者は14名と、いささか淋しい結果となった。さはさりながら、2007



年11月15日、気持は50年前と変わらぬ若々しい積りでも体がついていない70台翁たちは、三々五々会場である舞子ビラ神戸に集まって来た。同期15名の物故者に対して黙祷を捧げた後に宴会は始まり、近況報告や昔日の思い出話に花が咲いた。今後は毎年開催に変更すること、開催地を神戸に固定せず各地を巡回することを決め、最後に寮歌を高吟して宴を終えた。翌日母校を訪問し、白鷗寮まで足を伸ばしてかつての面影を求めようとしたが、キャンパスも寮も様変わり時代の変遷を感じながら記念クラス会は散会となった。(吉川記)

神戸商船大学12期生卒業40周年記念航機合同クラス会

平成19年10月6、7日於有馬“かんぱの宿”我々神戸商船大学12期生は今年卒業40周年を迎えました。卒業後40年海運、陸上、教育等 様々な分野に旅立ち、激動の40年、前期の“それぞれの遠洋航海”をほぼ終えたところ。この大きな節目を記念して表題の如く1泊2日のクラス会を開催しました。12期生独特の1年時北寮での全寮生活が幸いし航機の絆は抜群のものがあ、今回も合同クラス会となりました。遠くはUSAはHOUSTON、西は九州地区、東は関東地区から遠路58名の卒業生、及び3名の奥様、そして竹増正信、松本吉春、樽美幸雄、本田啓之輔クラス担当の諸先生方、総勢65名の参加を頂き、盛大且つ和やかな雰囲気の中に夜遅く2時、3時近く迄語り明かしたものです。そして翌日希望者はゴルフコンペへ、後は思い思いに解散、後期の“それぞれの遠洋航海”へと旅立って行きました。今回の目



玉はなんと言っても記念文集“それぞれの遠洋航海”の発刊でした。大変な作業ではありましたが、12E寺田栄一編集長の下、50名近くの方々の投稿を頂き、それぞれの人生模様が垣間見れる貴重な文集となったことを申し添えておきます。最後になりましたが、神戸大学海事科学部(旧神戸商船大学)同窓会(一海神会)から貴重な支援金を頂き、諸費用厳しい折、大きな助けとなりました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。文責：12E 赤井勝義

神戸商船大学卒業30周年記念同窓会(N22, E22, A02)

～30年の時を越えて～

- 実施日：平成19年8月25日(土)、26日(日)、1泊2日
- 参加者：航海学科22期…32名、機関学科22期…36名、原子動力学科2期…9名

初日8月25日は、13時より、旧神戸商船大学構内を古荘教授と矢野船長(深江丸)が、案内してくださるということなので、昼前に深江駅に着くように行きました。そこで、早くも懐かしい人と出会い、早速、深江会館まへの“うどんや”に入りました。すると、1人、2人と数人の仲間が入って来て、同窓会の前哨戦が始まりました。その後、少し早めに大学へ行こうと思い、店を出て歩いていると、別の店から呼ぶ声がありました。外を歩く仲間を店の中に引き込んで、同窓会が、始まっていたようです。昔からの店は、ほとんど見当たりませんが、深江の店で食べて、飲むと言うことが、皆、楽しく、懐かしく、

感じていたようです。大学へは、30数名ほど、集まったと思います。大学の構内、深江丸、海事博物館等を古荘教授、矢野船長に案内してもらいました。その後、白鷗寮に寄り、寮生に寮内を案内していただきました。このあとは、いよいよ、待ちに待った有馬温泉での宴会です。77名の大宴会です。始まる前からすでに、30年前にタイムスリップしていたようです。皆、大学時代と同じように、はしゃぎ、話を、酒を飲んでいました。変っているのは、体型と、髪の毛の様子と、日本酒も飲んでいましたが、焼酎を飲んでいる人が、大分いたくらいです。終宴後も、狭い部屋に集まり、皆、遅くまで、飲んでいました。まるで、大学の寮のようです。“同じ釜の飯を食った仲”とは、こういうことかと、思いました。30年ぶりに会っても、まるで、昨日も会った友のようです。翌朝は、皆さんのスケジュールに任せました。有志で、ゴルフコンペを実施したグループや、数人のグループで三宮に行った人達、その日、もう一泊して、神戸を懐かしんだ人達、様々でした。次回は、還暦同窓会です。

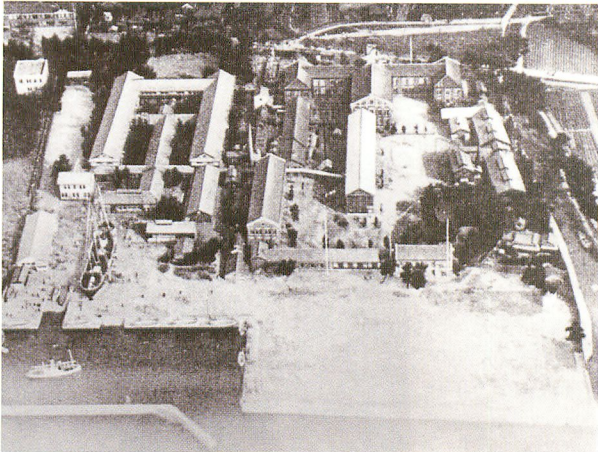
文責 航海科22期 小川 洋一(旧姓 中国 洋一)



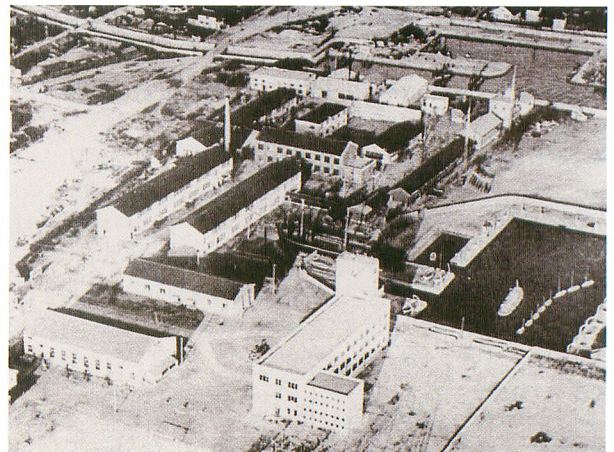
記念クラス会への海神会からの支援金としては、従来は卒業後50年、40年、30年となっていました。これに20年を加えることが、平成19年9月29日に開催された評議会にて決定されました。

深江キャンパス90年の歩み

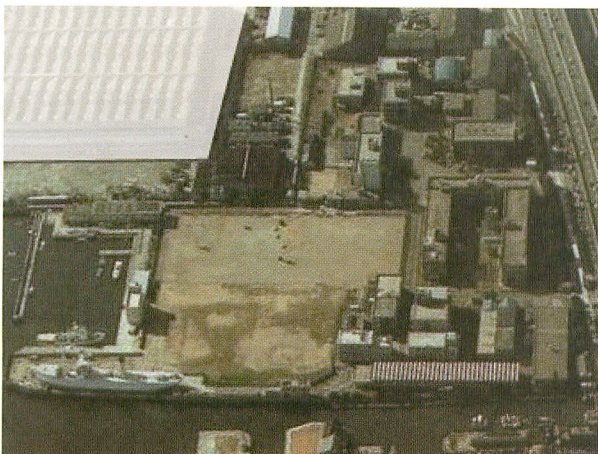
1917年(大正6年)に川崎商船学校が深江に設立されて以来、1920年(大正9年)には神戸高等商船学校へ、さらに1952年(昭和27年)に神戸商船大学へと深江キャンパスは大きく変化してきました。周囲を田畑にかこまれた20年代の自然に恵まれた環境にあった深江海岸、戦災の跡が消えて大学初期の卒業生の方々が学んだ1952年ころ、そして周辺の埋立て工事が進んで今のキャンパスのおよその形が出来上がった1980年頃、さらに1995年の大震災の後の2002年ころの合わせて4枚の写真を見比べてみましょう。



[1930年ころ]



[1952年ころ]



[1980年ころ]



[2002年ころ]

神戸大学海事科学部創基90周年記念事業の募金についての協力のお願い

海神会会員各位

海神会会長 井上篤次郎

神戸大学海事科学部は、大正6年(1917年)9月、六甲の連峰を背に、深江の浜に設立された私立川崎商船学校に始まり、平成19年(2007年)に、創基90周年を迎えました。

創基90周年を迎えるに当たって記念事業を実施することにより、大学院海事科学研究科設立の象徴として、新研究科における教育研究の更なる充実と国際海事研究所(仮称)の設置を推進しようとするものであります。この取り組みは海事社会に対し大いに意義のあることと存じます。

広く関係業界その他諸方面のお力添えを賜りたく、何卒この趣旨に御賛同くださいます、本目標達成に格別の御高配を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

トピックス ～西岡俊久教授を中心とする研究グループが文部科学大臣表彰～

- 西岡俊久教授を中心とする研究グループ5人が4月17日、文部科学大臣から平成19年度科学技術分野文部科学大臣表彰
- 科学技術賞(研究部門)で「移動有限要素法による動的破壊機構解明の先駆的研究」の業績に対して表彰されました。

大型クルーザーヨット「クライナーベルク」

(海事科学部 体育教員) 山下 和雄



H13年の3月に、小山奨学基金の寄贈により大型クルーザーヨット(44.2ft)の「クライナーベルク」が就航しました。海事科学部一年生の導入科目「海・船に親しむ」で活躍し好

評を得ています。特色ある大学、個性的な授業が望まれる時代になり、大型ヨットの授業導入に挑戦することになりました。授業という観点から、荒天の海を安全に走行できる堅牢性があり、さらに高速な帆走性能を有するという贅沢な条件がヨットの仕様にあげられましたが、素敵なヨットが進水しました。このヨットは大型ですのでセールやロープの種類も多く、準備や操船、後片付けに協同作業が必要になり、コミュニケーション、チームワークの育成には最適です。学生たちは「風を利用して風上に走るセーリング理論」や「ハイテクな装備」に興味津々です。大型ですので、学生を適当に振り回してくれる力強い乗り物になっています。荒天でも独立して航海のできる船に近代ヨットは進化していて、海を教育の場とする本学部の人材育成に新しい風を吹かせてくれる設備になっています。

◎ 他学部学生も乗船しています。

他学部の学生も受講する授業「海への誘い」が始まり、他学部(文学部、国際文化学部、発達科学部、法学部、経済学部、経営学部、理学部、医学部、

工学部、農学部)の学生たちも、海やヨットを身近な存在とを感じる体験をしています。近代的でハイテクなヨットは爽快に走り、風を動力として「揚力を使い走る」という説明と実体験は、学生たちに知的な好奇心をかき立てています。「海を愛し、船を愛す、たくましく若人よ、育て。荒海に乗り出す勇気を称え、この船を贈る。」と船内に小山氏の思いがプレートで張られています。

◎ 外洋帆走同好会

クライナーベルクの進水を機に、クルーザーヨットの課外活動がスタートしています。現在部員数は20名で他学部の学生も在籍しています。4月には舵杯(姫路YH)、5月には神戸祭りヨットレース(須磨YH)、8月には阿波踊りヨットレース(徳島YC)と夏クルージング(瀬戸内海7日間)とセーリングを楽しんでいます。平成18年、平成19年と神戸祭りレースではクルーザークラスIIで連覇し新聞にも報道され、またヨット専門誌のKAZI誌(平成18年12月号)で紹介されています。学生連盟へ加入し、体育会団体への昇格の予定です。3月には神奈川県葉山マリーナでの全日本学生外洋帆走選手権に参加して5位(7校中)と初陣としては健闘しました。



クルージングクラブの幅広い活動

(2年生) 阿部 航太郎

私の所属しているクルージングクラブはまだ発足して四年目ですが、その活動の幅広さと柔軟性はすばらしいので、さっそくそのクラブの紹介をします。

活動内容ですが、三種類のヨット(一人乗用、十人乗用、二十三人



乗用)を通じた練習を基本に、学生のレース、そして社会人のレースに参加しています。大学のヨットで出場することもあれば、他のオーナーのヨットに二、三人が乗せてもらって出場することもあります。様々な職業の社会人と知り合うことができ、また、ヨットの雑誌の編集記者やヨットのバイトを通じて多くの人も知り合うことができました。

レースだけでなく、毎年夏の長期休暇を利用して東瀬戸内海を約一週間かけて巡る「夏クルージング」や、安全のための日々の整備作業など、海船を学ぶ最高の環境が整っています。

神戸大学と合併したこともあり、六甲台の授業時間を考慮した練習時間を決めなければいけませんが、ヨットは少なくとも三人いなければ出せません。そんなわけで活動日でなくても「じゃあ今日もやるか。」といった感じで練習が始まります。

One for all. All for one

(2年生) 田村 直輝

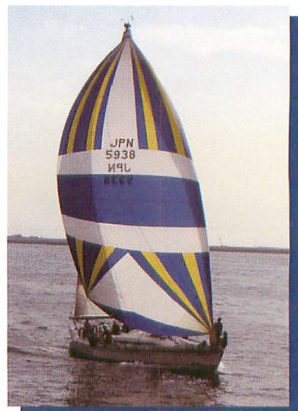
我々クルージングクラブは、大型ヨット「クライナーベルク」を主な活動の場としています。普段の講義、実習だけではなかなか海に出ることができません。しかし、校内に船があることもあり放課後気軽に海に出ています。1年中練習を行っていますので、春先のぽかぽか陽気や夏場の強い日差し、また秋から冬にかけての強い風など神戸の海を肌で直に感じています。

神戸大学との統合で、海事科学部の学生は1回生の1年間を六甲台に通います。夕方まで六甲台で講義を受け、その後深江にやってこなければヨットには乗れません。しかしそれでもヨットに乗りこえる1回生がいるほど面白いスポーツです。

普段異なるキャンパスで生活しているので、どうしても希薄になりがちな先輩後輩の関係ですが、驚くほど和気あいあいとしています。レースがあれ

ば基本的に泊まりですし、夏にはクルージングで1週間寝食を共にします。同期はもとより学年を超えた絆も非常に深いです。

まだまだ、幼いクラブですので発展途上ですが先生を始め諸先輩方の多大な努力により今まさに出港直前といったところです。我々はヨットを通じて海を学び、また海を通じて人を学ぶ、海のスペシャリストを目指しています。



『人間至る処青山あり』

今日まで何かとご無沙汰している皆様に、卒業後の越し方を以下、駄文にてお知らせいたします。昭和57年卒業後、(財)新日本検定協会に入会。東京本部、神戸支部勤務を経て、1990年から96年までジャカルタに家族帯同で駐在。帰国後は、大阪支部などに勤務後、埼玉県の大宮市(現在のさいたま市)に単身赴任。その後、10数年間住み慣れ、大好きな芦屋の為に働きたいと転職を決意。平成15



平成19年11月18日 ヨット艇庫前

年4月芦屋市議に挑戦。初選挙は無我夢中で、市内の商船大学のOBの皆様にも多数応援をいただき24名中3位で当選。また、本年4月の2期目も同様に力強い応援をいただき22名中5位で当選。改めまして、この場をお借りして心から御礼申し

航海学科27期卒 帰山 和也

上げます。これまで2回の選挙を当事者として経験したわけですが、まさに「選挙は水物」との言葉のとおり開けてみるまではどうなることか全く予断を許しません。市議員の仕事は年4回開催される定例会を中心に、総務など常任委員会、予算、決算、行財政改革(現在委員長)などの特別委員会による市政の調査が主要なものです。さらに、市民の皆様などから様々な相談や要望などが寄せられ、日夜、休祭日を問わず対応することになります。国からの権限と財源の移譲には未だ課題はあるものの、地方分権は着実に進展し、市議会の責務も重くなっています。財政厳しい芦屋ですが、今後も福祉、教育、環境、防犯・防災など行政課題にシーマンシップで果敢に取組む決意です。

ホームページアドレス:

http://www.komei.or.jp/giin/ashiya/kiyama_kazuya/

留学生としての4年間

2003年3月24日、私はマレーシアからの留学生として日本で新たな生活を始めました。日本に来た時、一番大変であったのは日本語でした。当時の私はあまり日本語が上手ではありませんでした。しかし、授業はほとんど日本語でしたので、ほとんど分かりませんでした。また、友達と話しているときもなかなか聞き取ることができませんでした。もうダメだと思った瞬間もありましたし、大学を辞めようとも思ったこともありました。また当初、私は日本料理をあんまり食べることができませんでした。なぜかという、日本料理は私にとっては、味がなかったからです。一回生のとき私は、できるだけ送ってもらったマレーシア食品を食べるようにしていました。そのほうが経済的であり自分の好きな食べ物も食べられるからです。しかし、いつまでも日本料理を食べられないと

動力システム 工学課程 4年生 AMIN ZABIDI

日本になじめないと思い日本料理を食べ始めました。今ではもう日本料理をほとんど好き嫌なく食べられます。日本で留学している外国人学生の多くは、物価が高いため生活をやりくりするのが非常に困難で生活のためアルバイトをふやしたりしています。私の国ではこういう状況はなかなか見ることができません。なぜなら、マレーシアの物価が日本の物価と比べてまだ安いからです。

私は4年間日本で生活することによって神戸大学で日本人やその他の外国人との交流し、日本そしてその他の外国のことを学ぶことができました。今まで述べた苦労や経験を経て一般の勉学だけでなく、人間がどう生きるかを学ぶことができました。最後になりますが私はこの留学が大変意義のあるものだったと感じています。

ストリートダンス漬けの4年間

カッコいいからという理由で私は、大学生活のほとんど全てをストリートダンスサークルに捧げました。普段の練習は夜中に六甲道辺りの駅前を利用することが多く、睡眠不足、昼夜逆転が当たり前になって、楽しくて毎日が本当に充実していました。ストリートダンスと聞くと、悪いイメージがあって社会で誤解を生みやすいも



マリンエンジニアリング課程 4年生 屋敷 昌利

のですが、毎日の練習後のゴミ拾いや地域の人々の優しく暖かい協力によって、地域の人々と触れ合うこともできていい刺激になりました。私のサークルでなんといってもメインの活動は学園祭です。六甲キャンパスの講堂で1000人以上のお客さんが見に来てくれた中で、構成から舞台設置まですべてをメンバー達で作上げた舞台で、はち切れんばかりの大歓声の中で踊った時は、生まれて初めての沸いてくる達成感と感動で涙し、ここにいる喜びを痛感しました。写真はその時のものです。共通の趣味を通じて何歳も年齢が離れた先輩や後輩と関わり、色々な考え人生観を持つ人に出会うことが出来てその豊かな考え方、生き方に本当に影響されました。大学4年間を通じて睡眠不足と引き換えに私はこのような素晴らしい経験が出来た事を誇りに思っています。心地よい空間と、年齢を超えて本音でぶつかり合える仲間に出会えた環境は、私の平凡に送るかもしれない大学生活をかけがいのないものへと昇華させてくれました。これからは卒研にまっしぐらです。

ヨット部

僕の周りには、「ヨット」と聞いてヨットを思いつく人はあまりいませんでした。大抵の人はボートやカヌーなどと区別ができません。僕は小学校の頃から地元のヨットスクールでヨットをやっていましたが、中学校も高校もヨット部はなかったので、部活に入ったのは大学が初めてでした。部活ではもちろん「ヨット」という言葉は通じるので、学校でヨットの話ができるのがとてもうれしく感じました。ヨット部の人でなくても、海事科学部の人なら大体わかってくれるので、大学は今までにない環境だと実感しました。

神戸大学ヨット部は、数年前までは部員が少なく困っていたらしいのですが、今は個性的な人がたくさん揃っていて、活気に溢れています。

海事科学部 1年生 土井 航平

この活気は、これから徐々に神戸大学ヨット部の強さに反映していくと思います。僕たちが練習しているところでは、他の大学も練習しています。僕たちは、私立大学に比べると設備や練習量が劣ってしまいますが、それは仕方のないことなので、一回一回の練習でその差を埋められるように密度の濃い練習をしています。これからも、お互いに気持ちを高め合いながら、さらに頑張っていこうと思います。ヨットというスポーツは生涯スポーツなので、僕はヨットと一生つきあっていくことになると思います。そして、ヨット仲間とも長い付き合いになると思います。僕は、社会に出て、OBさんたちを含めたヨット仲間たちとの繋がりを大切にしていきたいです。



海事博物館ボランティア活動へのお誘い

柴田 康彦 (航海科7期)

私は現在、深江キャンパス内の海事博物館のボランティア・スタッフの一員です。当博物館は、「神戸商船大学」時代には海事資料館として、講堂の一階部分にあります。ボランティア活動につきましては、「海事資料館研究年報、2003年版」に一期生三浦さんが詳しく紹介しておられますが、このボランティア・スタッフとして、是非、新たに参加して頂きたい紙面をお借りしてお願いしたいと思います。当博物館も1995年1月の阪神淡路大震災時にご多分にもれず被害を受けました。長さ3メートルもある立派なガラス・ケースに収められていた日本郵船崎丸、大阪商船うらる丸の素晴らしい模型なども大被害を受けました。これらは文部科学省予算を用い大修理されたそうです。他の多くの細かな補修、整理まで行き届かず、多くの所蔵品はグラウンド西に急造のプレハブ倉庫を建て、取り敢えずそこに仮収納されました。その後それら収蔵品を三浦さん、同期の高崎さん、中林さん、柴さん、そして5期生の松浦さん、天野さんが2002年秋からこのプレハブ倉庫で埃まみれになりながら整理されました。この時の整理台帳が、今、収蔵品検索に大変役立っています。さて、現在8名のボランティア・スタッフが、月、水、金の午後の3時間程度活動しています。見学者の方々に説明をしていますと、時には船好きの方々と知り合いになったり、あるいは紹介されることもあります。また、昔の高等商船学校時代の卒業生が、戦時中乗船していた船名を調べてほしいというような問い合わせを調査することもあります。更に寄贈された山田早苗氏、中島忠次郎氏、宮田幸彦氏などのコレクションの資料整理が増えています。例えば山田コレクションは、「終戦までの日本商船隊の行動記録」と、600分の1の模型船が102隻などの素晴らしいものです。最近では、自分の亡き後の海事関連資料の散逸を防ぎたいので引き受けてもらえないか、というような問い合わせもあります。引き受けた場合にはパソコンで整理した後、内容により博物館やホームページで公開したりします。様々な形で活動に参加することが出来ます。月、水、金の午後にはボランティアがおりますのでどうぞ船のこと大学のことなど「しゃべり」に覗いてみて下さい。(電話は、078-431-3564です。)現在の上記以外のメンバーは3期生近藤さん、6期生福田さん、森田さんです。

卒業生の皆さま、時間に余裕がございましたら是非ご参加ください。



会員証をお送りします

年来の懸案でありました会員証が完成しました。

この会員証はA5版で、机上に置くか、あるいは壁掛けとして使われることを想定して作成されています。

会員証の表面中央は、昨年度の「同窓会だより」に掲載しましたように、深江キャンパス内の学術交流棟1階に設置されている高等商船学校と商船大学の沿革コーナーの一角を占めている大きなパネルです。

このパネルは、大羽真治初代神戸商船大学学長が書かれた「常に気力と体力を」



の揮毫を挟んで、神戸商船大学の銘板と学章、その左右に世代が大きく異なる学生達がカッターを漕ぐ写真を左右に配置しています。会員証の表面はカラー印刷で、プラスチックコートして汚れなどが付き難いようにしてあります。

裏面は川崎商船学校創立以来の重要な出来事をまとめた年表と、入学年度・学籍番号と氏名が印刷されたモノクロ印刷です。

この会員証は、会費を全額納入頂いている会員に、本年度の「海神会だより」と合わせてお送り致します。



海神会ホームページについて

<http://www.fukae.org/>

海神会のホームページをご存知でしょうか？ ホームページでは、主に、総会・評議会などの開催をご案内しているほか、各種手続きが行えます。

また、このページ内の「リンク」から簡単に神戸大学海事科学部、あるいは神戸大学のホームページにアクセスでき、大学の近況、行事の予定などを見ることができます。ぜひ、ご活用下さい。

ホームページから可能な手続き

～総会・懇親会への参加を申し込みたい～

ホームページで、必要事項をご記入の上、送信ボタンをクリックしていただくだけで、簡単に手続きできます。

～海神会からの郵便物が届かない～

トップページの「住所登録手続き」に必要事項を入力し、ご返信いただくだけで、簡単に送付リストへの手続きができます。

～住所の変更手続きをしたい～

トップページの「住所変更手続き」に必要事項を入力し、ご返信いただくだけで、簡単に送付リストへの手続きができます。

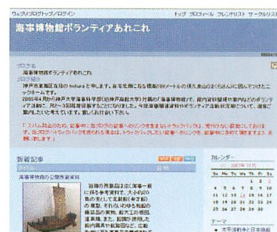


博物館紹介ブログ

深江キャンパスについての情報が発信されているブログを紹介しします。少し前から、インターネットの世界での話題のひとつになっているブログ、大学内の海事博物館の所蔵品を解説したり、海や船についてのトピック、さらに博物館の開催するイベントを次々に掲載しているブログ「海事博物館ボランティアあれこれ」を紹介しします。

アドレスは<http://kondoh-k.webry.info/>、熱心な同窓生の方がこまめに更新されており、海事博物館だけでなく、深江キャンパスの動きが判ります。

また、ご一読後に感想がありましたら、ページの末尾にコメントなどが記入できるようになっています。一度、このブログを開いてみてはいかがでしょうか。



事務局からのお願い

事務局は深江キャンパス1号館(正門から海に向かって正面の白い建物)3階建ての2階に「(財)商船大学後援会」と同室で業務を行っております。総合運営部会、「海神会だより」の編集、会合、総会などの準備は、ここで行われます。

会員の皆さん、深江に来られましたら、ぜひ事務局のドアをノックして下さい。ただし、事務局は毎週木曜日のみのオープンになっておりますので、できればなるべく早めにメール almamata@maritime.kobe-u.ac.jp 宛にご連絡頂ければ事務局担当者が在席できるように調整をさせて頂き、確認の返信をお送りいたします。

また高等商船時代を含め、在学中、航海実習中の教科書や教材、写真そのほか記念品がありましたら、事務局を通じて沿革コーナーならびに海事博物館で整理し貴重な資料として長く保存いたしますので、ご一報下さい。



2007年学内の主な行事

- 1月5日 船舶実習(4年生BN・BE)(～3月31日)
 - 2月13日 後期定期試験(～2月19日)
 - 2月24日 船舶実習1(1年生・2班)(～3月26日)
 - 3月22日 博士後期課程学位記授与式
 - 3月23日 学部・博士前期課程学位記授与式
 - 4月6日 入学式
 - 5月26日 深江祭(旧開学祭)開催(～5月27日)
 - 8月5日 オープンキャンパス開催
 - 8月22日 船舶実習1(1年生・1班)(～9月21日)
 - 9月25日 博士後期課程学位記授与式
 - 9月26日 乗船実習科修了式および博士前期課程学位記授与式
 - 9月29日 第2回ホームカミングディ開催
 - 10月1日 2年生課程配属、船舶実習2(2年生N・E)(～10月31日)
 - 11月5日 船舶実習2(3年生N・E)(～12月5日)
- BN:商船システム学課程・航海学コース、BE:商船システム学課程・機関学コース
N:海事技術マネジメント学課程・航海群、E:海事技術マネジメント学課程・機関群
T:海上輸送システム学課程、M:マリンエンジニアリング課程